

グリーン・ツーリズムに関する調査

平成17年3月
財団法人都市農山漁村交流活性化機構

I 調査の概要

1. 調査の目的

心身の癒し、食の安全等への関心の高まりとともに農林漁業、農山漁村が注目されつつある。中でも農山漁村と都市とを結びつけるグリーン・ツーリズムは地域からも期待が寄せられているものである。

本調査は、都市生活者がグリーン・ツーリズムに対してどのような関心を持っているのかを把握する目的で実施した。なお、本調査結果については、地域のグリーン・ツーリズムを推進する関係者等の基礎的な資料としてもご活用いただきたい。

2. 調査の対象

インターネットユーザ

ふるさとプラザメルマガ会員、オーライ！ニッポンメルマガ会員、関東農政局メルマガ会員、へのメルマガで告知、その他、まちむら交流きこうHP、グリーン・ツーリズムポータルサイトで告知を行いアンケートサイトに誘導した。

3. 回答数

101票

4. 調査実施時期

平成17年3月

5. 調査項目

- (1) 旅行の実態と考え方
- (2) 農業・農村との関わり
- (3) 田舎体験旅行への意向
- (4) グリーン・ツーリズムの認知と要望

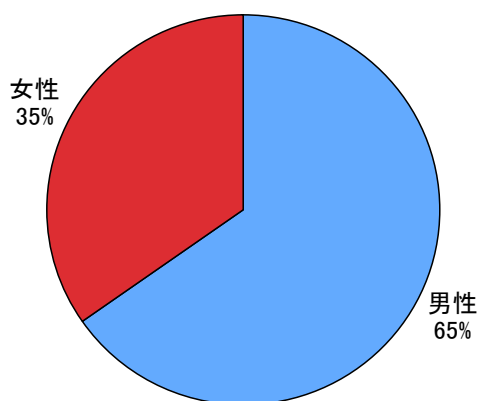
・ II 調査結果の概要

1. 回答者の属性

(1) 性別

男65%、女35%という構成であった。男女比は、平成14、15年度の調査においても6：4という構成という結果であった。

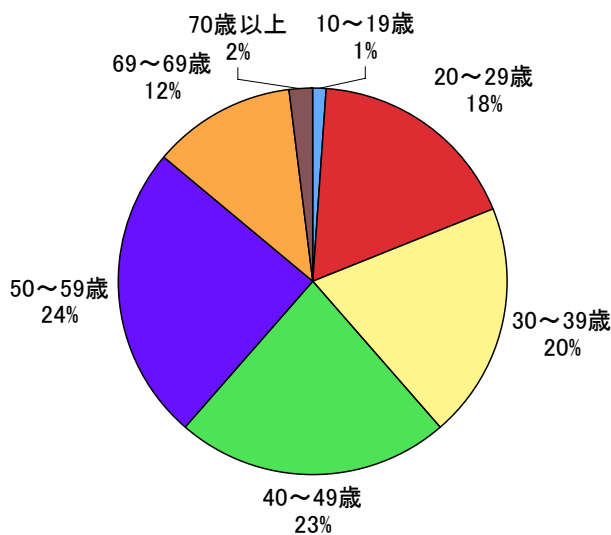
男女比



(2) 年齢層

年齢層については、50、40、30、20代の割合がそれぞれ20%近くでそろった。60代も12%で、各年齢層から均一に回答が得られる結果となった。

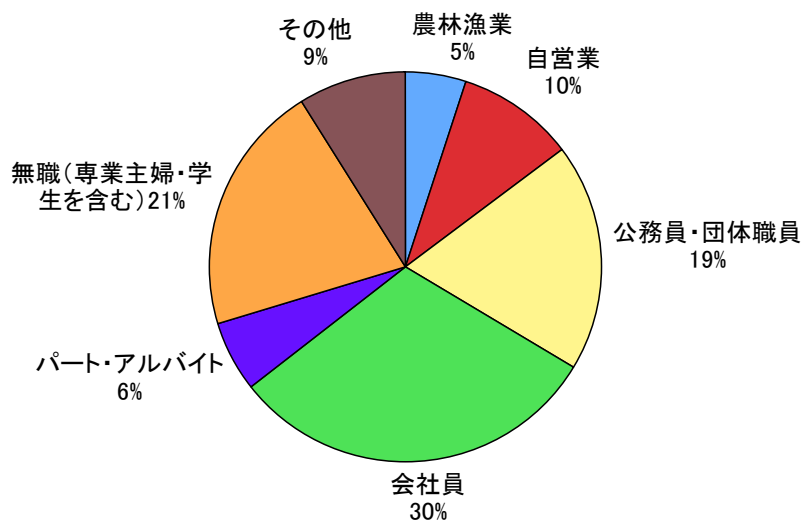
回答者年齢



(3)

職業については、会社員が最も多く、無職（専業主婦・学生を含む）、公務員・団体職員の回答者が多い結果となった。

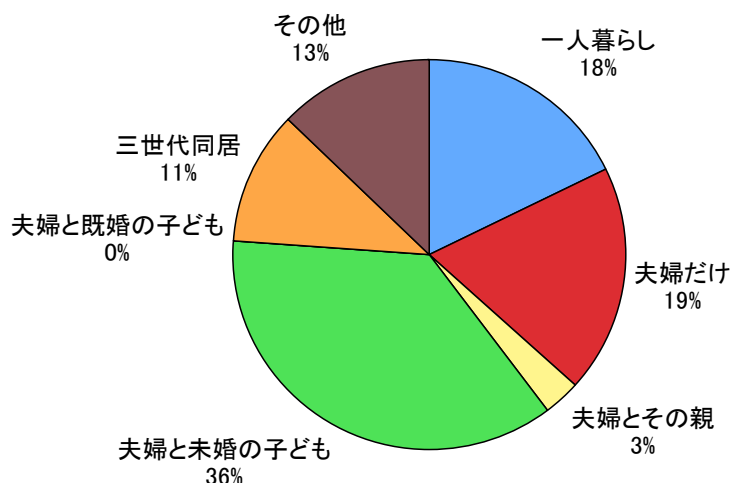
職業



(4) 同居の家族構成

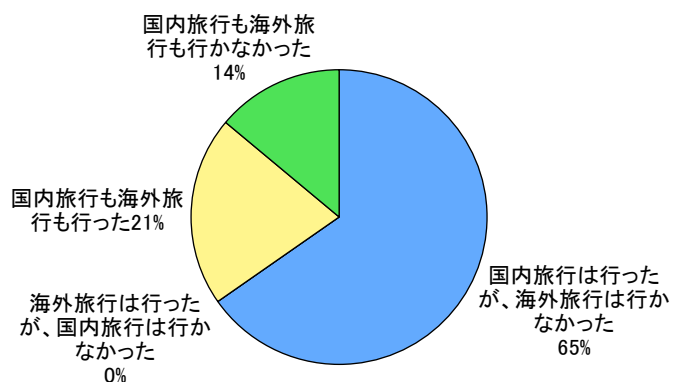
家族構成は、夫婦と未婚の子供が最も多く、一人暮らし、夫婦だけの家族構成がそれに続いた。

同居の家族構成



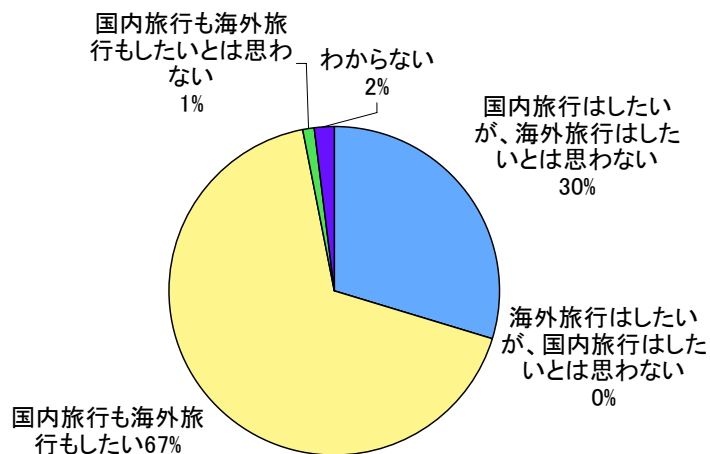
2. 調査内容の回答結果

(1) この1年くらいの間に、観光、レクリエーションのために旅行に行ったか
旅行の有無については、7割近くが国内旅行のみの結果となった。国内海外とも旅行をした回答者が2割おり、旅行に行かなかった人も1割近くいた。



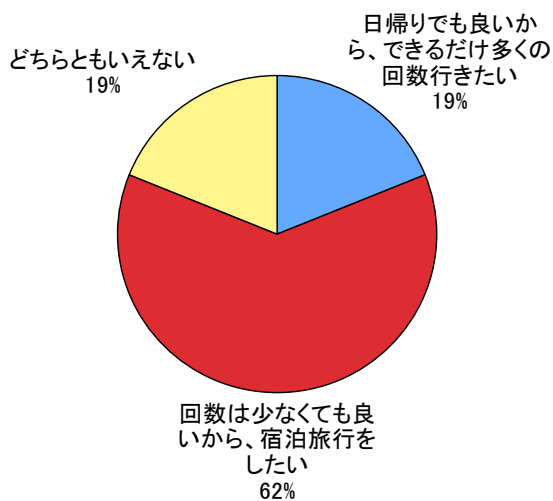
(2) 観光、レクリエーションのために国内外の旅行をしたいと思うか

旅行へのニーズでは、国内、海外両方への旅行を希望する人が7割近くいた。国内のみ旅行したいと答えた回答者は3割でこの2つの回答がほとんどを占めた。

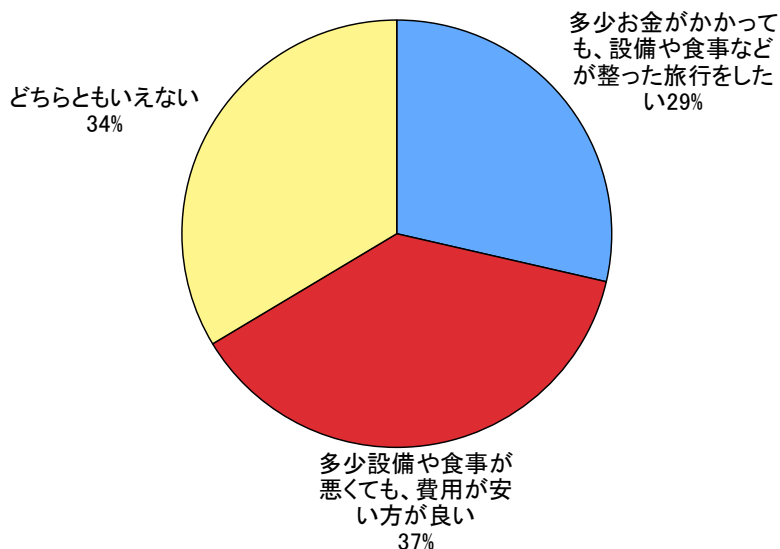


(3) 旅行についての考え方について

①旅行の回数については、回数は少なくても良いから宿泊旅行をしたいという回答者が6割を占めた。日帰りでも良いからできるだけ多く旅行に行きたい、どちらともいえないという回答者が共に2割だった。

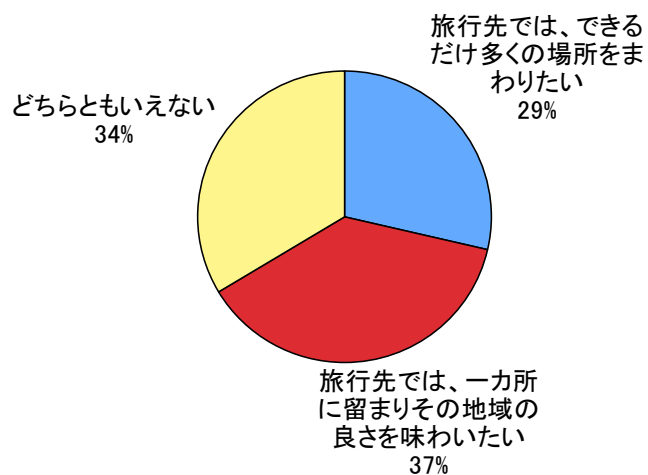


②旅行の費用については、費用がかかっても設備、食事が整った旅行、費用が安い旅行、どちらともいえないの回答比率がほぼ3つに分かれる結果となった。どちらともいえないと答えた回答者が3割を占めたことは、費用が安くかつ設備、食事等もある程度満足のいく旅行へのニーズが多いことの現れであろうか。

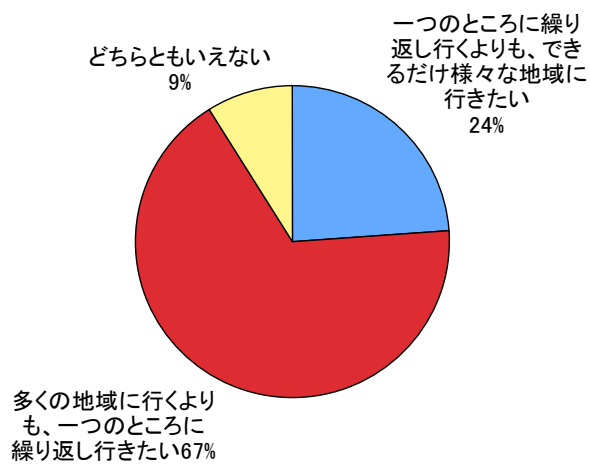


③旅行先についての考えについては、一番目の質問項目の訪問場所については、答えが3つに分かれた、できるだけ多くの場所を回りたい、一箇所に留まりたい、どちらともいえないそれぞれが3割近くの回答であった。どちらともいえない回答者の思いは何であろうか。二番目の回答では、一つの地域に繰り返し旅行したいが7割近くを占めて、旅行についてはリピーター的な要望が多いことがわかった。三番目の質問では、旅行先では何もせずのんびり過ごしたい人が半数を占めた。体験等をするよりも何もしないでくつろぎたいというニーズが意外と高いことが驚きである。四番目の質問では、便利で設備の整った都会が良いという回答が5割を上回ったのは以外であった。やはり、田舎にも水洗トイレ、コンビニ等は必要であるということであろうか。

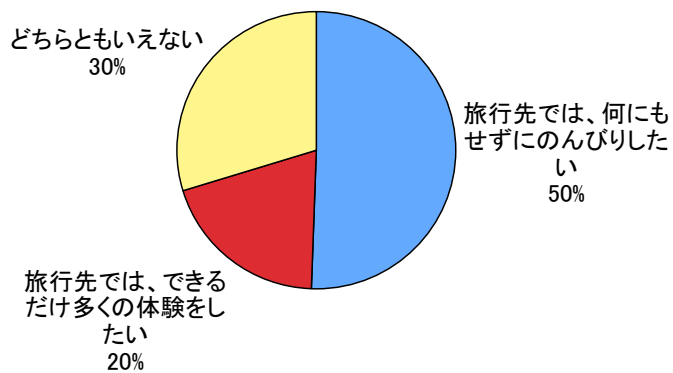
旅行についての考え方①



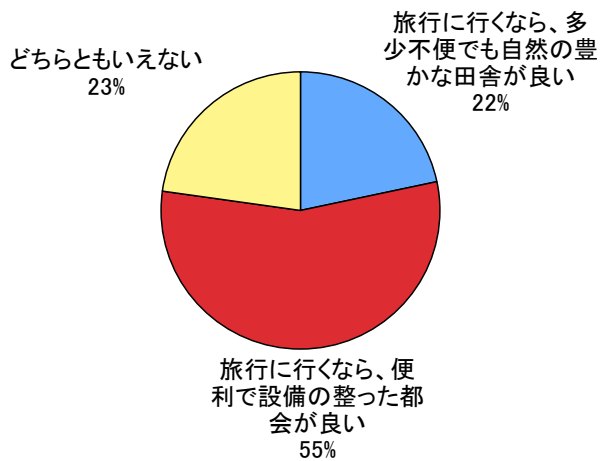
旅行についての考え方②



旅行についての考え方③



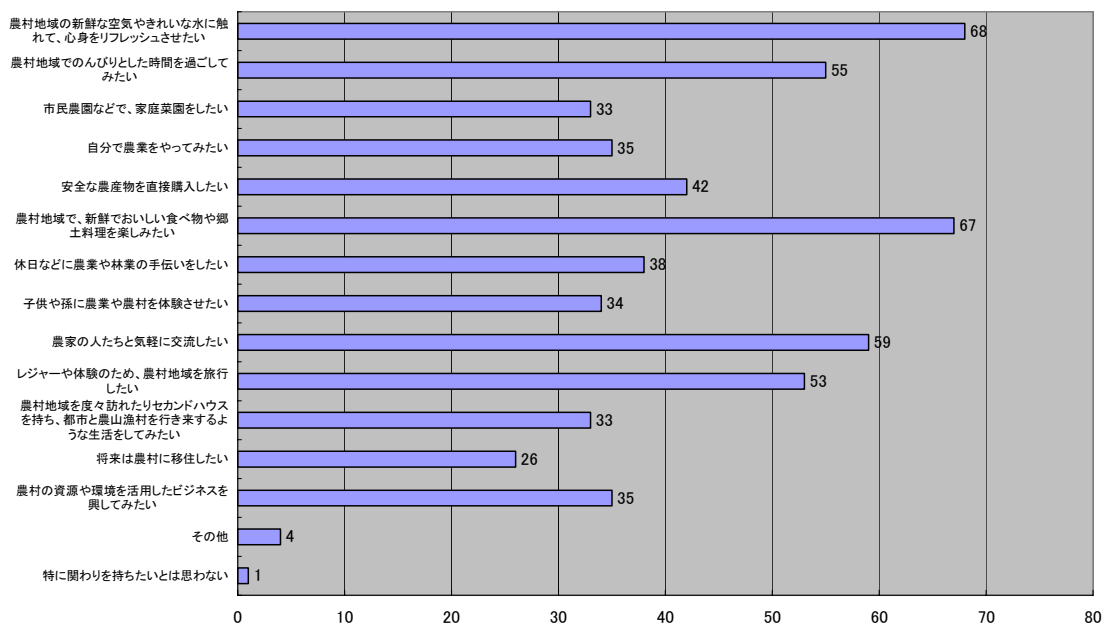
旅行についての考え方④



(4) 農業や農村とどのような関わりを持ちたいと思うか

農業、農村で心身をリフレッシュしたい、新鮮な食材を使った郷土料理を食べたいが回答として最も多かった。農家の人たちと気軽に交流したいといった人的な交流のニーズも多い。またのんびりした時間を過ごしたいというシンプルなニーズも多い。

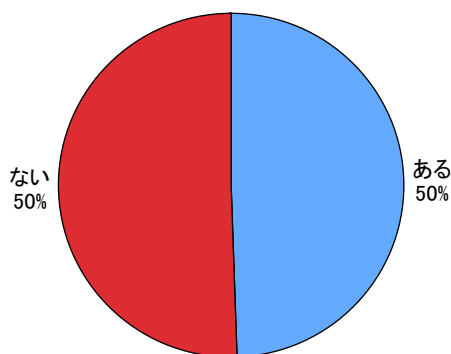
農業、農村との関わり方



(5) この1年間に、帰省を除き田舎体験的な旅行をしたことがあるか

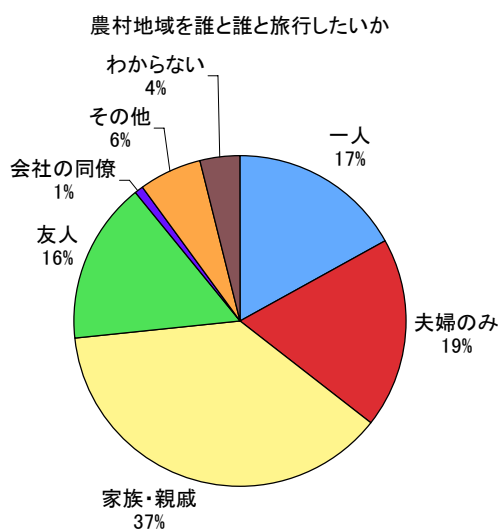
グリーン・ツーリズムの体験の有無については、回答が、「ある」、「ない」で2分した。実際に体験するという行動にまで移ることはなかなか難しいことであろうか。

グリーン・ツーリズム体験の有無



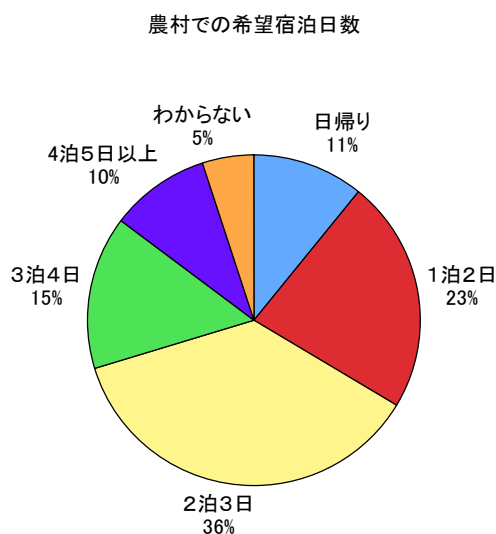
(6) 農村地域を誰と旅行したいか

農業、農村とのかかわりの質問の中で、「レジャーや体験のため、農村地域を旅行したい」にチェックを入れた回答者への質問で、家族・親戚との答えが4割近く、夫婦のみ、友人、一人との回答が2割近い回答であった。グリーン・ツーリズムのターゲットは、ファミリー層であるということが本調査結果からは言える。



(7) 農村地域での宿泊希望日数

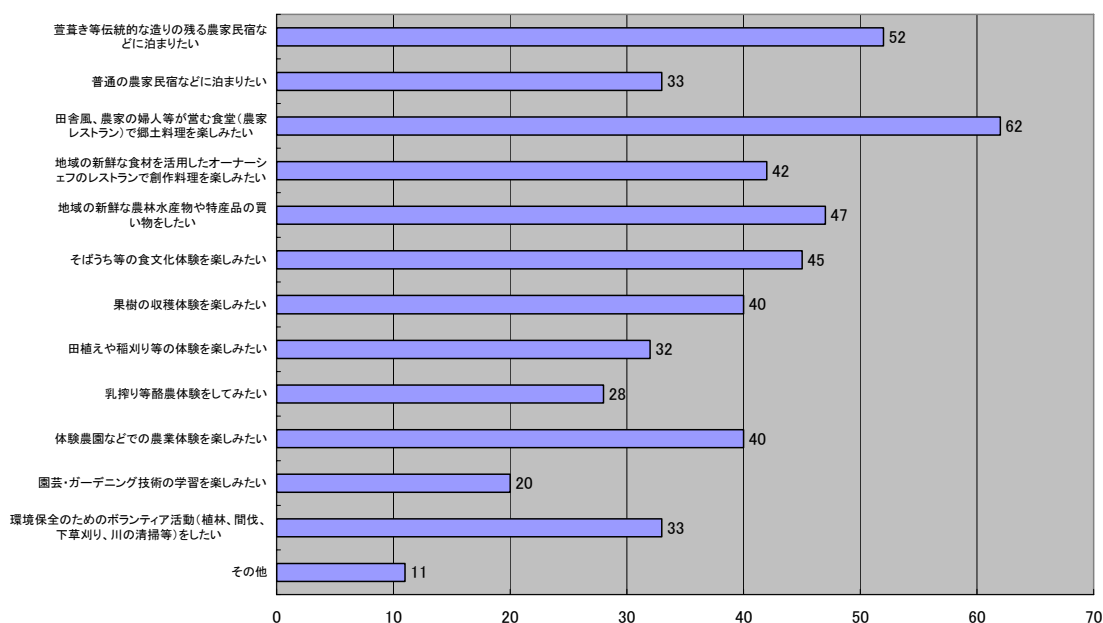
農業、農村とのかかわりの質問の中で、「レジャーや体験のため、農村地域を旅行したい」にチェックを入れた回答者への質問で、宿泊希望日数については、2泊3日が4割近くを占めた。4泊5日以上が1割しかいなかった結果からすると、現時点での日本型のグリーン・ツーリズムには、この程度の日数が適当ということか。



(8) 現地での具体的な体験の種類

農業、農村とのかかわりの質問の中で、「レジャーや体験のため、農村地域を旅行したい」にチェックを入れた回答者への質問で、現地での具体的な体験については、郷土料理を楽しみたいがトップで、特産物の購入、そば打ち等の食文化体験、オーナーシェフの創作料理の堪能等、グリーン・ツーリズムでは「食」に関する体験のニーズが圧倒的に高いことがわかった。

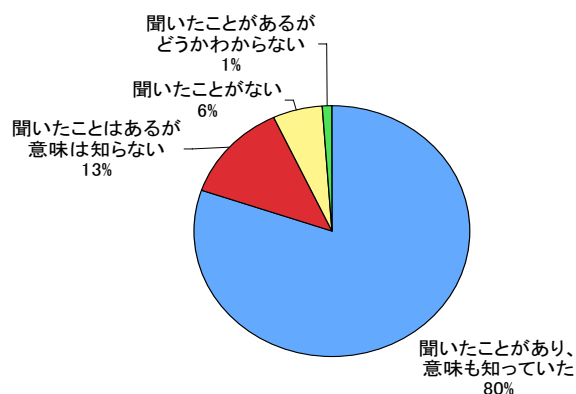
現地での具体的な体験の種類



(9) グリーン・ツーリズムの認知度

グリーン・ツーリズムに対する認知度については、8割の回答者が、聞いたこともあり、意味も知っていたとの回答であった。グリーン・ツーリズムへの関心の比較的高い調査回答者が多かった影響が回答に現れた結果となった。

グリーン・ツーリズムの認知度



(10) 農業・農村、グリーン・ツーリズムに対する期待、要望等

<p>市町村の様々な観光情報の提供を行う場合、公共交通機関(特にバス)で行きたい人たちに対する情報の充実をお願いしたい。例えば、「〇〇村へは、JR××駅から△△バスで90分。何時と何時のバスが出ていて料金はいくらです」。等、より詳しい情報を提供すれば、より関心をもってもらえると思います。</p>
<p>豊かな自然を前に無の心境で過ごす事の素晴らしさを多くの方々に感じて欲しい。</p>
<p>田舎暮らしする場所を見つけるために積極的に参加したい</p>
<p>農村で小さな蕎麦屋と農業をやっていますが地域興しに興味があり他地区の情報がほしい</p>
<p>商業ベースに走り、都会の人間のわがままを受け入れるのではなく、ありのままの地域性を受け入れる都会の人間だけを受け入れる姿勢を貫いてほしいです。見せかけだけの農村体験では、長続きしないと思います。</p>
<p>私自身推進しています。実際ビジネスとして成り立てばと思います。</p>
<p>今三重県多気郡宮川村で民間のボランティアで地域おこしのお手伝いをしています。他の成功例(苦労話) 失敗例などがあれば教えてほしい。</p>
<p>受け入れる側の農村側でも、儲からなければ、やる意義は薄いだろうが、旅行会社のパック旅行(日帰りの格安旅行等は除く)よりも、割安感のあるメニューが提示されれば、是非家族で、グリーン・ツーリズムに関わってみたい。</p>
<p>あまり観光的になりすぎではまいか、その地域の暮らし方より都会の様式をとりすぎていて楽しい一時的なものとなりブームとしてまいか問題だ。原点に戻り地域をどうすべきか計画したほうがよい。地域生活があつてこそ、成り立つものですから。</p>
<p>日本人には馴染み難い「グリーン・ツーリズム」という言葉があまり好きでない。一般的には理解されていない。田舎体験、ふるさと体験で良いのでは?言葉に頼らず、さりげないふるさと交流でよいのでは?</p>
<p>地域の資源を生かしたグリーン・ツーリズムの益々の発展を強く望みます。農村や地域の生き残り策として、地域の伝統、歴史、風土、文化を生かしたGTが必要ではないだろうか。</p>
<p>子供に自然と触れ合える場面を作ってあげたいです。東京から気軽に日帰りで行けるイベントなどがあれば情報が欲しいです。</p>
<p>情報発信基地をもっと増やして欲しいです。</p>
<p>NPOなどが媒介となってもっと盛んになるといい。商業ベースになると悪い意味で観光地化して、農村の良さが失われる。</p>
<p>収穫期に農作業の手伝いをし、対価として閑散期に安く宿泊させる等の商品開発を願う。</p>
<p>自分自身でそういうビジネスを試してみたい。農村を使った、観光は今後必要とされるものだと思うし、国際化となれば、日本みたいな自然があふれているところは、十二分に海外の人が訪れると思います。色々な魅力が眠っていると思います。</p>

<p>グリーン・ツーリズムが広がるのは、とても良いことだと思います。ただ、観光客が集中してゆっくりできないと逆効果になるので、ある程度の受入規模を保ちつつ、あまり受け皿を大きくしない方が良いと思います。人が増えてゴミが増えるなど、環境破壊につながっては元も子もありませんから。</p>
<p>グリーン・ツーリズムという言葉は、中高年がターゲットになっているようなイメージがありますが、私どもはときどき親子で参加しています。ノーカーですので、偏狭の地に行きたくても行けません。マイカー利用は極力避けてもらい、公共機関で行けるようなプランを組んでいただきたいです。しかもいわゆる観光バスなどで決められた施設を、決められた時間にめぐるのでなく、シャトルバス・タクシーなど複数のポイントをフレキシブルに安価で移動できる「足」を確保してほしいです。子連れの旅行は、高くつき、どこへ行ってもけして優遇されません。もてなしが良く過ごしやすいく所、適正価格であれば、繰り返し行きたいです。電化製品や電話などのない暮らしにも魅力を感じます。</p>
<p>安くて1日遊べるところを探すのが結構難しいので、1時間程度では見切れない規模の何かを作してほしい。いも堀りやいちご狩りなどして、その後、焼き芋コーナーで自分で焼いたり、いちごジュースを作ったりできる施設を併設・魚釣りをして、その魚を調理してくれる食堂・もしくは、自分たちで焼き魚にできる施設の設置・・・など。●桜の季節にお花見しながら、バーベキューできる場所の情報提供</p>
<p>農村を手軽に理解できる施設や体験メニューの受け入れがあると良いです。</p>
<p>関心高い人は多いと思いますので、もっといいPR方法があればいいなと思います！</p>
<p>グリーン・ツーリズムに大変興味があります。グリーン・ツーリズムのような考え方がもっと普及すれば良いと思います。</p>
<p>現地での交通手段の確保</p>
<p>都会人にとって農村生活は憧れであるが、衛生面と安全面を考慮した対応を希望します。ひなびた中に農山漁村の人情と自然に触れ、目から鱗が落ちる経験などを期待します。</p>
<p>その産物や環境、特に自然環境にどっぷりつかりそこに住む人達との有機的なつながりの中から自分の生き方、生きがいを追求したい。</p>
<p>将来、自給自足の生活がしたいと思っています。</p>
<p>グリーン・ツーリズムを行うことにより、多少なりとも農業・農村地域が活性化することに期待をするとともに、グリーン・ツーリズムが観光業として、成り立つことも期待する。理由は、両者がうまくいかなければ、発展はあり得ないと考えるからである。</p>
<p>身近で利用できる農業・農村地域の情報が欲しい。スローフードを実践してみたいが、指導者、指導書の情報が欲しい</p>
<p>学校単位の体験旅行や、子供づれの家族旅行が対象で独身男性が一人で体験するようなメニューは少ないような気はするが、酪農体験などはすごく興味がある。</p>
<p>安い費用で家族全員で旅行でき、地元の人や地元ならではの風景に接することができる環境をつくってほしい。</p>

<p>農村地域との関わりあいをもつことはとても大切なことであり、子供にもいろいろ体験させたい。</p>
<p>行政も民間も、もっと日本の農業就業者、特に若年者が少なくなっているが、グリーン・ツーリズムを通じて農業に対する認識を高めてもらいたい。</p>
<p>グリーン・ツーリズムの取り組み自体をもっと多くの人たちが知って、気軽に参加できるような体制ができればよいと思います。</p>
<p>このアンケートのような企画がたくさんあったらいいなあ～。あわただしく、たくさんの観光地をまわるパックツアーが多い。観光もあり、土地にゆっくり触れることもあり、体験もあり、温泉もあり、なんていう忙しい会社員向けの土日曜日企画があったら、身近に農村との距離が縮まる。また、季節を変えて行きたくなる。産地のニュースなどの発行もいいですね。情報が入ればまた、行きたくなる。定年の方々にも、温泉につかりながら、農業体験、協力ができる旅行企画があっても。もっと子供に、家族で参加、体験できる企画があったら～いいなあ。食育も子供のころからですね。</p>
<p>グリーン・ツーリズムによって都会の人が農山漁村に行き、資源や自然の大切さを体感することは、今後の都会での生活を考える上でも良いきっかけになると思う。また、農山漁村にとってもよい刺激になると思うし、都会の人の農作業や山林管理などによって高齢化、過疎化した地域には大きな助けになる部分もあると思う。しかし、良くなるも悪くなるも参加者・運営者しだいで、お互いの意思の疎通と少なからず将来的な計画があってこそ成り立つのではないだろうか。</p>
<p>現在共同購入という形で、野菜や卵、肉、牛乳などを買っています。毎月2度発行される注文用紙には、生産者の紹介がメッセージと共に載っています。お店によっては、野菜の生産者の紹介(写真つき)をしている所もあります。そういったことは、購入者からすれば、安心感や信頼感が得られたように感じられます。そういう結びつきも大事だと思います。</p>
<p>田舎の観光化は反対です。まずは、後継者(後継ぎ)が都会にマンション購入などしてしまわないような地域づくりをしていくことから始めないといけないと思います。観光客は「荒らす」ばかりです。そのへんをきちんと認識して、グリーン・ツーリズムに踊らされないことだと思います。</p>
<p>体験が出来るイベントが欲しい</p>
<p>実際にはどんな出会いがあるのでしょうか？そして、対象となる地域の方々の意識は？観光関連だけの人だけならやはり商売でしょう？欧州の場合はセカンドハウスとして住んでいますからね。キャンプでも良いと思うし。</p>
<p>全国農協観光協会の雑誌「ふれあい」の企画に参加しようと思うが、予定が合わず参加していないが、日帰りを含め1・2泊のものにまず参加したい。</p>
<p>宿泊したいが、最低限の設備・プライバシーがある宿泊施設がもっと増えてほしい。</p>

長期滞在型の資源がもっとあるといいと思います。棚田のオーナーなどで1泊くらいの体験はありますが、より長期に、地域に滞在した形で、体験したいです。グリーン・ツーリズム用のロッジとか、空屋になっている農家の利用などを期待していますが、情報にアクセスできずに、実現に至っていません。

いいとは思いますが、なかなか体験できないし、チャンスが少ない

きれいな自然環境とゆったりとした時間を過ごせ、体験できるコースが充実していると、何度でも行きたくなると思います。

お客さん扱いではなく、農家の方と行動を共にしたい。また、田楽などの伝統芸能の指導を受けたい。

自分の住んでいる地域でグリーン・ツーリズムができないか考えている。

その地域にしかない魅力、特徴などが発揮され、その情報がわかると楽しみが増える。

全国に存在する、地元の人と気軽に触れ合える農家民宿または、農家レストランの最新情報をネットで検索できる仕組みができればいいなと思います。

もう少し情報がほしい。農業分野だけではなく健康、環境、教育等と連携したグリーン・ツーリズムのメニューを提案してほしい。生活習慣病予防・リハビリ関連に期待したい。

私が農業・農村地域にいったときに気になったのが、観光地化してしまっているということです。その地域らしさを一部だけ出せばいいのではなくて、全体で行ってほしいと思います。施設など、大規模できれいであれば良いというのではなく、その地域や風景に溶け込んでいるかどうか等、基本的なところを整備していくべきだと思います。来る人のためだけでなく、そこに生活している人自身がその地域で心地よく暮らし、地域に誇り、愛着を持ってほしいです。

都市はどんどん発展し、田舎は衰退・・・といった悲しい現実を目の当たりにしています。どうやって、田舎のよさが伝えられるか、どうやれば定住まで結び付けられるか。手に職がある人は、まだ良いが、一般的にはそんな人は少ないなかで、雇用の場も少ない田舎でどうやって生活していけるのかを考えないといけない。

私はグリーン・ツーリズムを卒業論文のテーマにしています。私の研究を通じて、今まで以上に多くの人に、グリーン・ツーリズムを知ってもらいたいと考えています。もし、資料などがあれば、ご郵送お願いいたします。

都市部だけでなく、もっと身近なつながりある町場へのPRが今後必要でないかと思います。そうすれば、いわゆる田舎に住みたい身近な人々が増えていくように思います。

集団活動のできる受け入れ体制の確立と整備をお願いしたい。(教員)現在、林業体験と農業体験を実施していますが、個人のNPOや個人の農家に頼っている実情です。公的な支援の期待できる団体による活動の展開を希望します。具体的には、漁村体験や自活生活体験のできる活動を希望しています。

自分の地元で、綱島温泉・東京園、綱島市民の森、綱島公園、南綱島ポンプ場、池谷家の桃畑や屋敷林、飯田家の長屋門や地域史・誌資料、などの観光資源を利用して、自らグリーン・ツーリズムを企画・実行するとともに、後継者を育成しておきたい。その際、自分は「綱島地域食と観光のカリスマ」を、自称するつもりである。

●参考

アンケート調査項目

- 問1 あなたは、この1年くらいの間に、観光、レクリエーションのために旅行に行きましたか。(一つだけ選択)
- 1 国内旅行は行ったが、海外旅行は行かなかった
 - 2 海外旅行は行ったが、国内旅行は行かなかった
 - 3 国内旅行も海外旅行も行った
 - 4 国内旅行も海外旅行も行かなかった
- 問2 あなたは、この1年くらいの間に、観光、レクリエーションのために旅行をしたいと思いますか。(一つだけ選択)
- 1 国内旅行はしたいが、海外旅行はしたいとは思わない
 - 2 海外旅行はしたいが、国内旅行はしたいとは思わない
 - 3 国内旅行も海外旅行もしたい
 - 4 国内旅行も海外旅行もしたいとは思わない
 - 5 わからない
- 問3 旅行について次のような対照的な意見があります。あなたのお考えはどちらに近いですか。(一つだけ選択)
- 1 日帰りでも良いから、できるだけ多くの回数行きたい
 - 2 回数は少なくとも良いから、宿泊旅行をしたい
 - 3 どちらともいえない
-
- 1 多少お金がかかっても、設備や食事などが整った旅行をしたい
 - 2 多少設備や食事は悪くても、費用が安い方が良い
 - 3 どちらともいえない

- 1 旅行先では、できるだけ多くの場所をまわりたい
 - 2 旅行先では、一カ所に留まりその地域の良さを味わいたい
 - 3 どちらともいえない
-
- 1 一つのところに繰り返し行くよりも、できるだけ様々な地域に行きたい
 - 2 多くの地域に行くよりも、一つのところに繰り返し行きたい
 - 3 どちらともいえない
-
- 1 旅行先では、何にもせずにのんびりしたい
 - 2 旅行先では、できるだけ多くの体験をしたい
 - 3 どちらともいえない
-
- 1 旅行に行くなら、多少不便でも自然の豊かな田舎が良い
 - 2 旅行に行くなら、便利で設備の整った都会が良い
 - 3 どちらともいえない

■問4 あなたは農業や農村と次のような関わりを持ちたいと思いますか。

(複数回答可)

- 1 農村地域の新鮮な空気やきれいな水に触れて、心身をリフレッシュさせたい
- 2 農村地域でのんびりとした時間を過ごしてみたい
- 3 市民農園などで、家庭菜園をしたい
- 4 自分で農業をやってみたい
- 5 安全の農産物を直接購入したい
- 6 農村地域で、新鮮でおいしい食べ物や郷土料理を楽しみたい
- 7 休日などに農業や林業の手伝いをしたい
- 8 子供や孫に農業や農村を体験させたい
- 9 農家の人たちと気軽に交流したい
- 10 レジャーや体験のため、農村地域を旅行したい
- 11 農村地域を度々訪れたりセカンドハウスを持ち、都市と農山漁村を行き来する
ような生活をしてみたい
- 12 将来は農村に移住したい
- 13 農村の資源や環境を活用したビジネスを興してみたい
- 14 その他
- 15 特に関わりを持ちたいとは思わない

■問5 あなたはこの1年間に、帰省を除き田舎体験的な旅行をしたことがありますか。
(一つだけ選択)

- 1 ある (回)
- 2 ない

■問6 問4で10を選択に入れた方、どなたと行きたいと思いますか。

(一つだけ選択)

- 1 一人
- 2 夫婦のみ
- 3 家族・親戚
- 4 友人
- 5 会社の同僚
- 6 その他
- 7 わからない

■問7 問4で10を選択に入れた方、何泊ぐらい行ってみたいと思いますか。

(一つだけ選択)

- 1 日帰り
- 2 1泊2日
- 3 2泊3日
- 4 3泊4日
- 5 4泊5日以上
- 6 わからない

■問8 問4で10を選択に入れた方、現地ではどのような体験をしてみたいと思いますか

(複数回答可)

- 1 散策をし、農村景観を楽しみたい
- 2 萱葺き等伝統的な造りの残る農家民宿などに泊まりたい
- 3 普通の農家民宿などに泊まりたい
- 4 田舎風、農家の婦人等が営む食堂(農家レストラン)で郷土料理を楽しみたい
- 5 地域の新鮮な食材を活用したオーナーシェフのレストランで創作料理を楽しみたい
- 6 地域の新鮮な農林水産物や特産品の買い物をしたい
- 7 そばうち等の食文化体験を楽しみたい
- 8 果樹の収穫体験を楽しみたい

- 9 田植えや稲刈り等の体験を楽しみたい
- 10 乳搾り等酪農体験をしてみたい
- 11 体験農園などでの農業体験を楽しみたい
- 12 園芸・ガーデニング技術の学習を楽しみたい
- 13 環境保全のためのボランティア活動（植林、間伐、下草刈り、川の清掃等）
をしたい
- 14 その他（具体的に ）

■問9 「グリーン・ツーリズム」という言葉をお聞きになったことがありますか。（一つ
だけ選択）

- 1 聞いたことがあります、意味も知っていた
- 2 聞いたことはあるが意味は知らない
- 3 聞いたことはない
- 4 聞いたことがあるがどうか分からない

■問10 農業・農村地域やグリーン・ツーリズムに対する期待や要望など、自由にご記入
下さい。

■性別 1 男性 2 女性

■年齢

- 1 20～29歳
- 2 30～39歳
- 3 40～49歳
- 4 50～59歳
- 5 60歳以上

■職業

- 1 農林漁業
- 2 自営業

- 3 公務員
- 4 会社員
- 5 パート・アルバイト
- 6 無職（専業主婦・学生を含む）
- 7 その他

■同居の家族構成

- 1 一人暮らし
- 2 夫婦だけ
- 3 夫婦とその親
- 4 夫婦と未婚の子ども
- 5 夫婦と既婚の子ども
- 6 三世代同居
- 7 その他

■一番下のお子さんは

- 1 小学生以下
- 2 中学生
- 3 高校生
- 4 大学・専門学校
- 5 社会人（未婚）
- 6 社会人（既婚）
- 7 子どもはいない